

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 2008年11月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4070702081		
法人名	有限会社 グローバルケア		
事業所名	グループホーム グローバルケア		
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡西区藤原3丁目10-15 (電話)093-691-3021		
評価機関名	特定非営利法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成20年11月13日	評価確定日	

## 【情報提供票より】(20年10月25日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成15年11月17日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 6 人 兼務 5 人 非常勤 1 人 常勤換算	6.4

## (2)建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	新築 <input checked="" type="radio"/> 改築 <input type="radio"/>
建物構造	鉄骨 造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分	

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

## (4)利用者の概要(10月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 76 歳	最低	66 歳	最高	86 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	白土医院 戸畑けんわ病院 菜の花クリニック 向野眼科医院
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームグローバルケアは、産業医科大学に隣接した住宅地の一角にあり、家族的な雰囲気を醸し出している。玄関周りはゆっくりと寛げるテーブルと椅子が備えてあり、水槽の中では亀が元気に動いて利用者の楽しみの一つである。鍵のかかっていない開放的な玄関に入ると、利用者の楽しそうな笑い声が聞こえ、居間のソファでは利用者一人ひとりがのんびりと寛ぎ、職員と一緒にビーチボールを楽しみながら、穏やかで自由にのびのびとした雰囲気に住み心地が良い。オーナーや管理者の「どんな状況であっても、自分らしく暮らして欲しい。何でも話し合い、居心地が良い家と一緒に生きていきたい」という考え方を職員一人ひとりが理解し実践し、心が温かくなるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	平成18年評価での改善課題7件の中、3件は改善できている。残る改善点および新たな改善点は、地域密着型サービスの機能を取り入れた理念の作成、運営推進会議の再開、人権教育・啓発活動への取り組み、災害対策の4件で、今後の課題として取り組んでいくことが期待される。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で、自己評価・外部評価の意義を理解し、平成18年度の外部評価の結果を生かす様に改善策を講じ実践につなげている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	前年度までは運営推進会議を開催したが、行政の参加が少ないことやメンバーからの意見が出てこないこと等により、本年度は会議を開催していない。今後は市町村との連携強化と、会議メンバーへの積極的な働きかけにより、2ヶ月毎に開催することを期待する。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ホームでの生活状況を掲載した「花だより」を定期的に発行し家族に送付している。家族の来所時には利用者の生活の様子、変化等の報告がなされている。権利擁護制度および成年後見人制度については、現在該当者はいないが、説明用の資料整備と、職員の研修参加が望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会、老人会に加入し、敬老会や地域のバザー、盆踊り等に積極的に参加している。利用者の散歩中には、職員の方から気軽に挨拶しや声かけ合いができています。今後は開かれたグループホームとして、地域住民が気軽に訪問できる環境づくりが望まれる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「第二の住い」を主軸に家庭的環境を謳った独自の理念はあるが、地域密着型の理念ではない。		地域に密着したグループホームとして、活動していく理念を作成することが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や1階2階の各廊下の分かりやすい位置に手書きの理念が掲示され、職員は常に理念に立ち返りながら実践に向けて取組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会や老人会に加入し、敬老会、地域のバザー、盆踊り等に参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が、自己評価・外部評価の意義を理解し、評価を活かすように改善策を講じ、改善に向けた取組みを実践している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度は会議を開催したが、行政の参加が少ないことや、メンバーからの意見・要望が出ないため、今年度は開催していない。		メンバーに対して運営推進会議への積極的な参加の呼びかけを行い、2ヶ月に1回の開催を期待する。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当窓口(包括支援センター)へのアプローチ、連携や交流が見られない。		市町村担当窓口に対する事業所側からの、積極的なアプローチや連携が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	該当者がいないために制度の情報提供は現在行っていない。成年後見制度・地域福祉権利擁護事業についての資料の用意や、研修会受講が出来ていない。		制度についての説明資料(パンフレット)の整備や職員が研修会などに参加し、理解を得て利用者や家族に説明できる体制が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に、ホームでの生活状況を掲載した「花だより」を送付している。家族の来所時には利用者の生活の様子や変化の状況を報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の苦情・相談には、担当者が積極的に傾聴する姿勢で臨んでおり、スタッフに対しても話しやすい雰囲気がある。介護相談専門員を2ヶ月に1回、1時間ほど受け入れている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム内の異動や退職者が発生した場合には引継ぎの期間を取り、スムーズに馴染める様にしているが、利用者の戸惑いも多少はある。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	法人グループ3ヶ所で男性4名を採用しており、年齢や性別の制限はない。応募者に対しては本人のやる気と人物を重視している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	県や市主催の人権教育への参加、市の人権啓発活動行事への参加は出来ていない。		管理者は、職員に人権教育、啓発活動の参加や実践に向けた取り組みが出来るような配慮が望まれる。
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市主催の認知症介護実践研修には定員や日程の都合でなかなか受講が出来ていない。月1回の定例会議で情報の交換、共有化を行っている。		職員全体の介護に対する知識や技術を向上させるための外部研修、内部研修を積極的に取り入れていくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とのネットワークがなく、交流会や勉強会が十分とは云えない。		地域のグループホーム協議会に加入し、同業者とのネットワークづくりや勉強会、相互訪問などを通して、事業所外の意見や経験をケアに活かす等、サービスの質の向上につなげることを期待する。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は、家族と共にホームを見学し、昼食や夕食を一緒にとりながら、入居希望者の状況に応じて、段階的に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との関係は共に暮らす家族の一員として、本人の思いに共感し理解している。職員は利用者から学ぶ事が多いと実感している。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者とは過ごす日々の関わりの中から、また家族の情報を通して、本人の希望や意向を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	随時カンファレンスを開催し、月1回の定例会議で、利用者や家族の要望を汲みいれながら問題点・改善点などを話し合いケアプランを作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直しを行い、利用者の状況変化、家族・本人の要望に応じて見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	オーナーの人脈を活かして、出張美容教室やネイル教室の開催、隔月のコンサート鑑賞(外出)等を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は24時間対応が可能であり、利用者のかかりつけ医の受診は家族が同行している。利用者の希望により歯科医の往診やマッサージ師に訪問してもらっている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの指針を定め、家族・医師・看護師を交えて検討し、全員で方針を共有している。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱い、プライバシー保護、秘密保持などをマニュアル化し、個人の尊厳に留意した対応が出来ている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や希望を聞きながら、本人のペースを尊重した日々の暮らしの支援が行なわれている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、食事前のテーブル拭きや箸配り等の準備に参加している。職員も食事を利用者と共にし和やかな食事風景が見られる。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回の入浴日としているが、臨機応変に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	茶碗洗いや洗濯物たたみ掃除等の家事作業の分担、買物同行の支援等を行っている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩や、四季折々の花の観賞(桜・バラ・あじさい等)、コンサート・映画鑑賞など多岐にわたる外出支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアを実践し、職員のさりげない見守りを実施し、利用者が安心して暮らせるように支援している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常出口が1箇所屋上への避難が困難と考えられる。避難訓練は年に1回実施しているが、地域住民の協力による参加が得られていない。		夜間を想定した避難訓練を、地域住民の協力を得て参加してもらい、非常食、飲料水の備蓄が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や飲水量は毎日チェック表に記録し職員間で情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間からは台所の作業の様子が一望でき、安心感と懐かしさのある、家庭的な共有空間を作っている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、ベッド、寝具、カーペット、仏壇など馴染みのものが持ち込まれ、居心地良く生活が出来る環境づくりへの配慮があり、居室の入り口には工夫された表札がかけられている。		